

2 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)	(プロジェクト目標)：対象の3郡において、安全な水衛生設備および設備管理組織が整備され対象住民の水衛生設備へのアクセスおよび衛生行動が改善される。
	(今期事業達成目標)：マサンジェナ郡において安全な水衛生設備および設備管理組織が整備され対象住民の水衛生設備へのアクセスおよび衛生行動が改善される。
	(3) 達成された成果に記載のとおり、概ね想定した成果が達成されたことから、プロジェクト目標(今期事業達成目標)についても達成できたと判断できる。
(2) 活動内容	グランドセレモニー 2022年6月にガザ州の州都シャイシャイにて、マサンジェナ郡の郡長および公共事業局(以下SDPI=Serviço Distrital de Planeamento e Infra-Estrutura)の職員、在モザンビーク日本国大使館より坂本臨時代理大使を招待し、グランドセレモニーを実施した。事業スタッフが事業を説明し、現地政府関係者から事業への理解と協力を確認した。セレモニーの様子は現地TVニュースで報道された。 活動1：水衛生設備整備 1.1 水設備整備 1.1.1 新規給水設備建設 3基の新規給水設備を予定通り建設し、2023年2月に現地政府へ管理権限を譲渡し、使用開始された。 1.1.2 既存給水設備修繕 2基の既存給水設備の修繕を予定していたが、やむを得ず中止した(中止した詳細は別紙参照)。 1.2 衛生設備整備 1.2.1 トイレ建設 現地政府との協議(2022年4月)の結果、トイレ建設の対象校を変更(変更した詳細は別紙参照)。変更後の対象校10校にて、学校トイレを建設し、2023年2月に管理権限を現地政府へ譲渡し、使用開始された。 1.3 世帯トイレ整備 1.2の衛生設備整備と同様に、事業開始時に現地政府との協議の場で得た情報に基づき、対象コミュニティを変更した。(変更内容の詳細は別紙参照) 1.3.1 世帯トイレ用スラブ作成研修 2022年10月から11月にかけて、対象コミュニティにて水衛生委員会メンバー計20名に対しスラブ作成研修を実施した。 1.3.2 世帯トイレ用スラブ作成用素材・工具の支給 スラブ作成研修にて水衛生委員会のメンバーへ、セメントや工具を支給し、各コミュニティにて同メンバーによるスラブ作成が開始された。CLTSファシリテーターとの協力の下、順次スラブを各家庭へ配付し、その後、世帯トイレの使用状況を確認するモニタリングとフォローアップを行った。尚、作成するスラブ数(806毎)は、CLTSファシリテーター(活動2.1で研修)による戸別調査で確認された(詳細は別紙参照)。 活動2：衛生行動改善活動 2.1 CLTS活動 2.1.1 CLTS ステークホルダー会議 2022年7月、マサンジェナ郡政府より計11名が参加し、当会議を実施した。関係者へCLTS活動の内容を詳細に共有し、CLTS活動への協力と理解を得た。 2.1.2 CLTS ファシリテーター選定 対象コミュニティにて、CLTSファシリテーターの選定を予定通り実施し、各コミ

	コミュニティから2～4名、計20名（男女各10名）のCLTSファシリテーターを選定した。 2.1.3 CLTSファシリテーター育成研修 現地政府関係者と対象コミュニティから選出した20名に対し、育成研修を実施した。研修後に実施した習得度を測るテストでは、参加者全員の合格を確認した（詳細は別紙参照）。 2.1.4 CLTSファシリテーター現地活動 1) Pre-Triggering 2022年8月、CLTSファシリテーターがコミュニティリーダーや事業スタッフと共に、対象コミュニティを巡回し、住民の衛生行動の観察を行いながら、住民との関係作りに努めた。 2) Triggering セッション CLTSファシリテーターや事業スタッフと共に、対象コミュニティにて当セッションを実施した（当セッションの詳細は別紙参照）。 3) Post-Triggering 2023年2月に上陸したサイクロン・フレディの影響で、予定していた活動のうち、3月に予定していた活動を今次では中止し、2年次の活動に追加することとした（詳細は別紙参照）。 2.1.5 衛生啓発キャンペーン 水衛生関連の国際デーに合わせ、ラジオ番組を作成し、対象地で1日2回、1週間に渡り放送した。学校トイレを建設した10校においても、手洗い週間など関連イベントを実施し、正しい衛生行動の啓発に努めた。 2.2 学校における衛生啓発活動 2.2.1 衛生啓発ステークホルダー会議 2022年8月から9月にかけて、予定通り対象10校にて計80名の教員および保護者と当会議を実施し、その後モニタリングを行った。 2.2.2 衛生啓発・トイレ清掃管理研修マニュアル作成 マニュアルおよび教育教材を作成し、対象10校の教員各2名へ配布し活動2.2.4で使用した。 2.2.3 教員対象衛生啓発・トイレ清掃管理研修 予定通り当研修を実施し、研修後のテストでは、対象教員全員が合格ラインである正解率80%以上を達成した。 2.2.4 教員による衛生教育 研修を受けた教員により衛生教育が実施され、その後のアンケート調査（生徒の衛生知識を確認する目的）では、手洗いの重要性を再認識した生徒が、家庭でも兄弟たちにも伝えたいと述べる等の成果が確認された。 活動3：水衛生施設における運営維持管理体制整備 3.1 行政機関の水衛生施設運営維持管理体制強化 3.1.1 水衛生設備管理ステークホルダー会議 2022年8月、給水施設を建設した3つのコミュニティにて、インフラ管理局(SDPI)の職員1名と水衛生委員会メンバー各施設12名と共に、当会議を実施した。 3.1.2 水衛生施設運営維持管理マニュアル作成 事業で作成した維持管理マニュアルを、建設した3基の給水施設の水衛生委員会SDPIに配付した。 3.2 水衛生委員会の水衛生施設運営維持管理体制強化 3.2.1 水衛生施設運営維持管理研修 3つの水衛生委員会を対象に、作成したマニュアルを用いて、簡易メンテナンスの実習研修を実施した。また、水衛生委員会が給水施設の維持管理を担い、現地政府がそれを監督することを共に確認した。研修後の理解度確認テストでは、全
--	---

	員が合格ラインである正解率 80%以上を達成した。 プロジェクト終了評価ワークショップ 当活動は、各ステークホルダーから当事業の効果や学びを聞き取る形で実施した。 (詳細は別紙参照)
(3) 達成された成果	成果 1 と 2 の一部を除き達成した事を確認した。(詳細は別紙参照) 成果 1 : 対象コミュニティ住民の安全な水衛生設備へのアクセスが改善される 「持続可能な開発目標(SDGs)」の「目標 6:安全な水とトイレを世界中に」と「目標 10:人や国の不平等をなくそう」に貢献した。 <u>【指標①】各年次において、コミュニティ住民の 80%以上が以下全ての点を満たしている」と回答する。→凡そ達成</u> ・自宅から往復 30 分以内に給水設備が整備されている。→70.8%整備完了(未達成理由については別紙参照) ・必要なときに安全な水を手に入れる。→82.1%で達成 ・調査実施時から遡り過去 2 週間、飲料水が原因と思われる疾患や下痢を家族が経験していない→82.9%で達成 (確認方法: コミュニティ住民対象無作為抽出 KAP 調査 Knowledge, Attitude and Practice (KAP) 調査) <u>【指標②】対象校全てにおいて、男女別、施設可能な個室トイレが整備されている。</u> (確認方法: 建設完成レポート、直接訪問) →100%達成 <u>【指標③】対象校の児童の 80%以上が、学校にいる間いつでも安全にトイレを利用できていると感じている。</u> (確認方法: 児童対象無作為抽出 KAP 調査 (1 年次約 330 人)) →93.2%で達成 <u>【指標④】対象校の児童の 100%が、学校にいる間の野外排泄およびトイレの都度の帰宅が減ったと答える。</u> (確認方法: 児童対象無作為抽出 KAP 調査 (1 年次約 330 人)) →対象校において、学校にいる間に野外排泄している児童は 22.5%から 16.6%に減り、トイレに行くために帰宅している児童は 3.9%から 1.7%に減ったことを確認し達成 <u>【指標⑤】対象コミュニティにおいて、100%の世帯が、他世帯と共有しない世帯トイレを所有し、使用している。</u> (確認方法: CLTS ファシリテーターおよび水衛生委員会による世帯トイレ建設モニタリングレポート、コミュニティ住民対象無作為抽出 KAP 調査) →62.5%で指標目標に届かなかった。 成果 2 : 対象コミュニティ住民および学校の教員・児童の衛生行動が改善される 「持続可能な開発目標(SDGs)」の「目標 3:すべての人に健康と福祉を」と「目標 10:人や国の不平等をなくそう」に貢献した。 <u>【指標①】 1 年次 7、3 年間計 20 の対象コミュニティにおいて ODF が確認される。</u> (確認方法: CLTS ファシリテーター活動レポート、事業スタッフによるモニタリング、コミュニティ住民対象無作為抽出 KAP 調査) →全対象コミュニティにおいて ODF 達成

	【指標②】対象コミュニティ住民の 80%以上が適切な衛生知識と行動を身につけている。 (確認方法: コミュニティ住民対象無作為抽出 KAP 調査) →80%以上で達成 【指標③】対象校全てにおいて、80%以上の児童が、適切な衛生知識と行動(例:適切な手洗い方法等)を身につけている。 (確認方法: 児童対象無作為抽出 KAP 調査(1 年次約 330 人、事業スタッフによるモニタリング) →80%以上で達成 【指標④】対象校全てにおいて、建設された学校トイレが適切に清掃管理されている。 (確認方法: 事業スタッフによるモニタリング(毎年)、児童対象無作為抽出 KAP 調査(1 年次約 330 人) →全対象校にて達成 成果 3: 対象コミュニティにおいて安全な水衛生施設の管理体制が整備され、建設・修繕した水衛生施設が適切に維持管理されている 「持続可能な開発目標(SDGs)」の「目標 6:安全な水とトイレを世界中に」と「目標 10:人や国の不平等をなくそう」に貢献した。 【指標①】水供給設備の維持管理マニュアルの内容が、水衛生委員会と現地行政により作成される運営維持管理計画に組み込まれ、同計画の実施が確認されている。 (確認方法: 給水設備維持管理マニュアルの有無、マニュアル配布受領書、事業スタッフによるモニタリング(毎年)) →達成。給水施設の維持管理マニュアルの内容が、運営維持管理計画に組み込まれ、実施されていることを確認した。 【指標②】各郡につき、最低 20 名の水衛生委員会メンバーが維持管理研修を受け、簡易メンテナンスや修理ができるようになる。 (確認方法: 研修完了レポート、研修員理解度確認テスト結果、事業スタッフによるモニタリング) →達成。水衛生委員会から 20 名に対し維持管理研修を実施し、知識と技術を習得したことを、研修後の理解度確認テストにより確認した。 【指標③】建設・修繕した水衛生施設が適切に維持管理されている。 (確認方法: 事業スタッフによる水衛生委員会活動モニタリング、修理・メンテナンス記録、ステークホルダー協議(Key Informant Interview)、事業スタッフによるモニタリング) →達成。建設した給水施設 3 基が適切に維持管理されている事をモニタリングにより確認した。
(4) 持続発展性	1) 気候変動の影響に強い水衛生設備が整備され、適切に維持管理されている。 干ばつに強い高出力の給水施設を建設が無事に完了し、2023 年 2 月にマサンジェナ郡政府へ引き渡された。同政府と共同で実施した水衛生委員会の育成研修において、作成した維持管理マニュアルを基に、今後、水衛生委員会が給水施設の維持管理を担い、現地政府がそれを監督することを共に確認することで、彼らの主体性が身につくよう努めた。この管理体制は 2023 年 6 月時点で実践されている事を事業後のモニタリングにて確認している。また、簡易メンテナンスに必要な工具を支給し実習形式の研修を実施し、さらにコミュニティ住民から徴収する水使用料について、各水衛生委員会を中心にコミュニティでの話し合いによって決め、維持管理費として使用できるよう、管理体制を整えた。 対象校 10 校にて建設したトイレについては、当事業で研修を受けた教員が、生徒で構成される清掃委員会を組織し、彼らが当番制で清掃管理できるよう指導・監

	督する体制を整えた。 以上の体制作りに加え、事業後の適切な維持管理責任を州政府が担う旨を明記した MoU をガザ州政府と締結したことで、事業後においても継続して給水施設および学校トイレの維持管理がなされる見通しである。 2) コミュニティ住民が適切な衛生行動を維持し、世帯トイレの維持管理、清掃、追加建設を自発的に行うことで、各家庭およびコミュニティ全体において、衛生的な環境を持続できている。 事業期間を通じ、対象コミュニティにおいて ODF 達成に向けて共に活動した CLTS ファシリテーターが、地域の衛生環境を守るリーダー的存在となり、事業後も啓発活動が続けていく。同ファシリテーターの主体性を醸成することを鑑み、研修修了者へ「CLTS ファシリテーター」とポルトガル語で書かれたユニフォームを配付し、啓発活動時に着用できるようにした。世帯トイレについては、対象住民からなる水衛生委員会へのスラブ作成を習得する技術研修の実施、及び型や工具などの施工用物品配布を行ったことにより、事業後も同委員会が自立してスラブ作成ができる環境を整えた。これにより、事業後もコミュニティの衛生的な環境が持続されることが期待される。
--	---